１９９１年（平成３年）　１２月１５日発行　広　報（第２４４号）

カナダ

秋

Autumn

あなたのにゅーたうんKANADA

発行：金田町　編集：企画開発課　☎(0947)22－0555　ＦＡＸ(0947)22－0782

（藤林俊信フェスタ実行委員会会長のあいさつ）

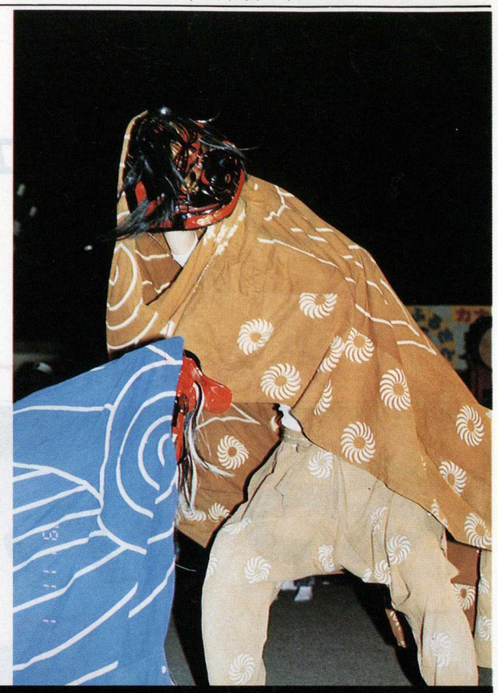
（'91ふるさとカナダふれあいフェスタ会場）

オープニングセレモニー

ふるさとカナダふれあいフェスタ
美味
今カナダがおもしろい

（神崎保育園児によるクス玉わり）

テープカット（属議長、大島町長、藤林会長（左より））



上金田獅子楽保存会のみなさんです。

一区獅子楽保存会のみなさんです。

（エネルギッシュなロック）

ふるさと再発見 11／1日（前夜祭）

星空の下での、伝統を受け継いでいく青年達、現代のミュージック・ロックを演奏する若者達、ともにこのふるさと〝カナダ〟を愛しています。

（自慢の〝のど〟をカラオケで）

第四回金田町少年の主張大会⑪

私の気持ち

金田中三年　原口織江

私達の周りには、色々な人がいますが、主に目につくのは「障害者の人」です。

街などへ行くとよくみかけますが、私は正直言って、かわいそうだなぁ、私はあんなふうにならなくて良かったなぁ、と必ず思います。障害者の人達は、何事もないように元気良く笑ったり、しゃべったりしています。でも、周りの私達はぜったいに見てしまいます。

私だけではないと思いますが、母達と先日直方に買い物に行った時の事です。駅前のスーパに行き、婦人服や、子供服、それにさまざまな小物などを置いてある階で、障害者の人達数人と先生らしき人が、楽しそうに買い物をしているのを見ました。私は、母や弟と一緒に見るともなく自分達の欲しい物をさがしていました。その人達は少し不自由そうな手で、あれやこれや手に取っては、先生みたいな人に何やら相談をしているようでした。

私は少しびっくりしました。人の目を気にする事もなく、私達の横を通る時などぶっかりそうになると、頭をちょっと下げて、あいさつをするようにして通りすぎるのです。

少し引きずったような足、あまり自由には動かないような手、しゃべる言葉もあまり私達には良くわからないのに、落ちついてはずかしそうでもなく、店員さんに何か聞いているようでした。店員さんも申し訳なさそうな顔をして良くわからないのか、何度も聞き返していました。

私は、その時思いました。私だったら、きっと自分自身の不自由さをはずかしがったり、人には良く聞きとってもらえない言葉の事を気にして、おしゃべりも人前では、きっと出来ないのではないか、親の事をうらんだり、神をうらんだり、明るい顔もできないような、暗い人間になっているのではないだろうか、でも、この人達は健常者の人達と、同じ事を、同じようにしようと思っているのだ。自分自身の努力や強さ、それに、先生や親の人達も皆で努力して、人前でもどうどうと明るくふるまえる態度、私達はかわいそうだとか、気の毒だとかあわれみをもった気持が先に立って、見て見ぬふりをしたり、「かわいそうに」と口には出さないまでも、きっとそんな顔をして見ていたに違いないと思います。

障害者の人達にはそのような気持の方が、ありがた迷惑だったのではないでしょうか。私には人の目を気にするより、自分の歩く一歩一歩の足どりの方が大事なのだろうと、自分に出来る事は、どんな小さな事でも自分の力でする事の方がその人の為になるのでしょう。人の力をかりずに、何でも自分自身の力で出来た時の喜びの大きさを知って欲しいとの、周りの人達の思いが、何となく私にはわかるような気がしました。私達もその喜びを、学校の事や家庭の事などでも、感じてきました。その為にこうして、自分達で買い物にも行けるように、障害を持つ人達が一緒になって、人ゴミの中で努力しているのでしょう。私達は、何か小さな事でも、その人達が助けを求めて来た時に、自然に笑顔で手をかしてあげられれば、良いのではないでしょうか。私達は健常者として、障害を持つ人達と、どうつき合っていけば良いのかを、自分なりにもう少し考えてみたいと思います。

障害を持つ人が皆、努力ばかりしている人ではないかもしれませんが、私達と同じ社会で同じ学校へ通えるような設備がもっとふえれば、もっと多くの友達がもてる気がします。

「原口織江」さんは、父原口慎一郎、母富美江さんの長女として昭和51年7月7日生れの中学三年生、二人姉弟で、大字神崎一五三四番地（笹尾）に住んでいます。

感想

田中教育長

自分の身の周りを見つめその中から身体障害者のスーパーでの買い物の様子を見て自分の心の動きと身障者への対し方、更に将来の身障者福祉社会のあり方まで考えようとしたという、着想も、見方も、文章表現も実にしっかりしています。

「人の目を気にするより自分の歩く一歩一歩の足どりの方が大事」であり「何でも自分自身の力で出来た時の喜びの大きさを知る…」というあなたの感想は障害者を通して、あなた自身の目で見あなた自身の頭で考えたこと、つまりあなた自身を発見したということですね。これは、まことに重大な発見です。人が生長するということは、こういう発見がつみ重ねられていくことであり、自分の外への目が、同時に自分の内側のものを見ることが出来るようになるという事です。学校での勉強や、読書ということもここが出発点になります。あなたのその発見の喜びは読む私にもよくわかります。それを大切にして、更に考えを深めて下さい。

第四回金田町少年の主張大会⑫

今、思うこと

金田中三年　桒野和代

「あははは……」。この大きな笑い声は私が一日に最底二回は出す授業中の声です。休み時間にでも話しているようなこの大声、いくら先生に注意されても、やめるのはその場だけで、毎日毎日同じことのくり返しでした。他のまじめに授業を受けている人に、とても迷惑をかけていたにちがいありません。けれどその時は他の人の迷惑なんてわからないのです。

自分が楽しければそれでいい！なんて、自己中心的なことを思って話しているんですから。

なんてやつと思うでしょうが、それが今までの私のあたりまえの生活だったんです。

しかし最近はやはりおしゃべりはしますが、あまりひどくしゃべらず、けっこうふつうどうりに授業を受けるようになりました。それはあたりまえのことなんですが、今までおしゃべりをすることが当然だった私には、とてもむずかしいことだったのです。

でも今は、「しっかり聞いていないと……」と自然に思っているのです。なぜそう思うようになったのか、その理由は二つあります。

一つは、あと一年で受験だ！と今までわかっていたことなのですが、今あらためて感じたことそしてもう一つ、先生に何度注意されてもなおらなかった私のおしゃべりを少しけずった最大の理由、それは部活のことです。私は一年後半から、小学校のころから絵を書くことが好きだったこともあり、美術部に入部しました。そして今までずっと美術部の仲間といっしょに活動してきました。十二月の文化祭では、二、三年女子でセル画のスライドを作りました。

その制作にあたって、みんなで放課後毎日ように残り、〆切が近くなると夜おそくまで残ってがんばりました。それが完成した時のあの感動、今でもわすれられません。その美術部を、両親は三年になったらやめさせる！というのです。理由は成績が下がったから。

おー何てことなの!!私はそう思いました。そしてぜったいやめたくなかったので、一生懸命やめなくていい方法を考えました。考えて考えた末、ある答えを見つけ出したのです。「そうだ!!三学期の成績を上げれば今そんなことがいいんだ。」今そんなことが頭にあるので授業をふつうどうり受けれるようになりました。いえ、なったつもりです。あとは試験の結果しだいです。精一ぱいがんばるつもりです。

今、自分が少しはおしゃべりもしますが、ふつうどうり授業を受けるようになって思うことはまわりのうるささです。自分がおしゃべりをあまりせず授業を受けていると、今まで気づかなかったことに気づきます。自分がしゃべっているとき、他の所で人がしゃべっていてもぜんぜん気になりません。しかし今は本当にまわりがうるさいのに、迷惑さを感じます。

そして今まで、自分がどれだけ他の人達に迷惑をかけていたかが、今わかるような気がします。今、始めて授業の大切さがわかり、自分がかけていた迷惑の大きさを反省しつつあります。

これから、三年生、高校生となるにつれて、この経験をわすれないように、とにかく人の気持の奥底がわかるような人間になりたい、いえ、必ずなろうと思います。

「桒野和代」さんは、父勝、母幸江さんの長女として昭和51年9月28日生れの中学三年生、三人兄妹で大字金田七四〇番地（西金田）に住んでいます。

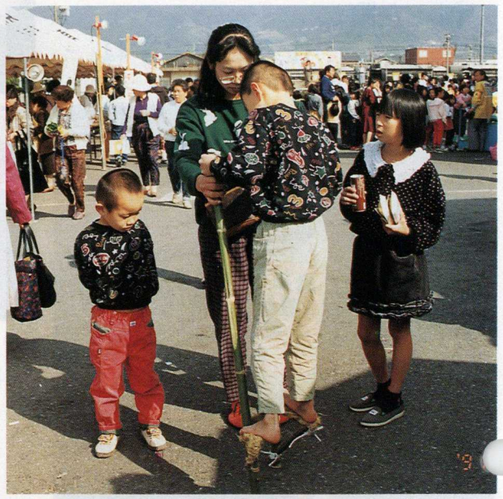
感想

田中教育長

身近な学校生活の中の授業態度のことから、さりげなくふるまって来た自分をふりかえって「人の気持の奥底がわかるような人間になりたい」という人生の目標をたてたという心の変化がうまく表現されているのは全く感心しました。

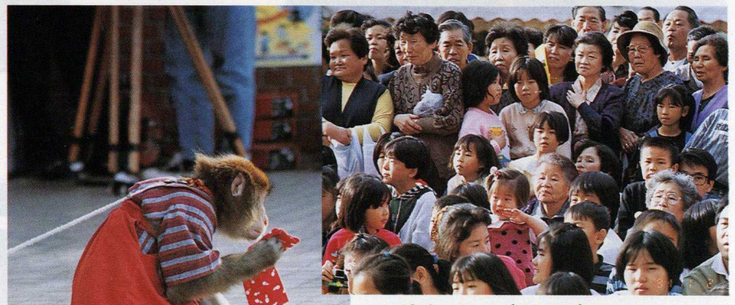
けれども、又驚きました。「人の気持の奥底がわかる」などということは、いったい人間に出来ることでしょうか。（もしかしたら神様だけにしか出来ないかも知れない）そう言う自分の心の奥底だって人間にわかることでしょうか。…しかしとにかくあなたはそういう「人間になりたい」という目標をたてた。一つの「願望」ですね。こういう大望を抱くことが出来るのは若者の特権です。それを単なる願いだけに終らせない為にどうすればよいか。あなたの好きな絵を描くこと、それも一つの方法でしょうし、心理学や精神医学などの科学を学ぶことも一方法でしょうし、文学や音楽などの芸術分野に進むことも一つの方法でしょう。その為には努力が必要でしょうが、あなたが今のその「大志」をあくまで伸ばされることを私も祈ります。

シャッターチャンス！



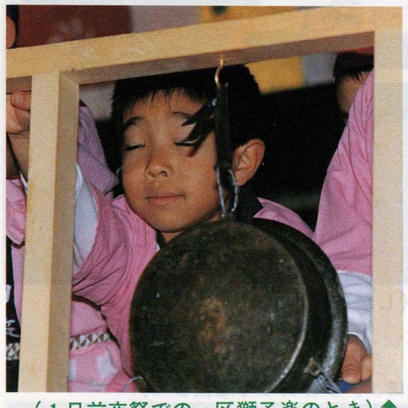
『お姉さん、どうやってのるの？』⬆

『いらっしゃい、らっしゃい、らっしゃい』⬆



⬅ 猿舞座の〝新平〟くん

人形を抱いたり、目頭をハンカチで押さえたり、師匠に相談するしぐさ等、楽しいひとときでした。



（１日前夜祭での一区獅子楽のとき）⬆

『ぼく達には、時間が少し遅かったかな』

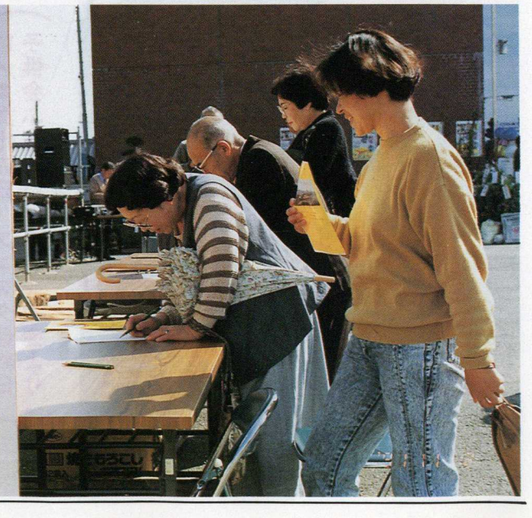
ご協力ありがとうございました。➡

早速、集計作業に入っていますので、年末までには終了します。

フェスタ参加人員

11月	1日	600人
	2日	1,400人
	3日	1,300人
計		3,300人でした。

まちづくりアンケート



『ぼく達子供にとっても、大人の人にとっても、買ってみたいな、行ってみたいなと思うもっと明るく楽しい商店街に』

金田小６年 放送委員
天賀 典彦君

『花は心のやさしさを育てます。だから、みんな仲良く、花がたくさんある学校にしたい。』

金田小６年 広報掲示委員
利光 愛さん

『この一年間このようなイベントで、金田町は変わってきています。各種イベントをやっている大人達に感謝したいし、私達も受け継いでいきたい。』

金田小６年 児童会計画委員
中原 奈緒さん

『ふるさとをきれいにしようとする創意と工夫で、ゴミを減らして、きれいなカナダまちを』

金田小６年 図書委員
野田 大樹君

『アイラブカナダふれあいセンターを設けもっとふれあい情報発信の場を』

県商工会青年部連合会会長
池田 昇さん

『地域に根づいた青年活動で、行政区、まちの活力の中心を創り出そう』

上金田青年団長
和田 智幸さん

『金田町では５０億にも達する農機具をかかえています。これではダメ。一町一農場方式で農業の活性化を』

県鞍手農業改良普及所主任技師
古屋 隆司さん

カ 感動　ナ 仲良し　ダ 大好き

まちづくり弁論大会

私ならこうする！

『地域の人々や子供達がふれあえるスペースを、そしてこの場から新しい視点による町づくりを』

ひらばる幼稚園教諭
辰島 有佐さん

『地域がお年寄りをわが町の財産として考える社会を』

小野英語教室代表
村上(旧姓小野)美幸さん

『役場職員がまちを活性化させるキーワード。我がまちを愛する情熱をもった創意と工夫、そして、引っぱっていこうとするエネルギーが必要』

赤池町まちづくり課長
太田 傅さん

『地域住民と密着して、協同で育てる筑豊平成鉄道を』

平成筑豊鉄道㈱総務課長
高橋 勝さん

『我々は、生涯現役!! もっと我々を活用してもらいたい役場との情報交換の場を…』

金田町老人クラブ連合会会長
吉田 繁雄さん

『私はカナダまちをこよなく好きだからここまでやってこれました。町民のんながこのまちを好きになったら、このカナダも変わるのではないでしょうか』

金田町議会議員
(とびいりの)江口 三郎さん

吉田勝蔵さん
まちづくりプロジェクトチーム委員

『先日、宝見ではふれあい広場を区民総参加で成功させました。このカナダで、各地区で特色のあるいろいろなイベントが行れたら』

〈表紙写真〉

他人が創った町に住むよりも
自分達の智恵と汗で
創った町に
住みたいですね。

（金田町は今、歩きはじめました）

（途中、きついことも……）

昨日までは過去です。今日から私達一人ひとりが、住みつづけたい町、住んでみたい町づくりに参加しましょう。

（しかし、ギブアップはしません）

金田は私達にとって大切な財産
金田・かなだ・カナダ
KANADA

自信をもって新しい町づくりに、
人づくりに参加しましょう!!

（ゴールに向かって全力で）

（11／3文化の日、フェスタ最終日子供会ふれあいマラソン大会より）

（互いに、声かけあって最後まで）